

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【文部科学省】

施策番号	24014	施策名		頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣事業			
新規／継続	新規	領域	人財強化	国際的位置付け	—	AP施策	—
競争的資金	—	e-Rad	—	社会還元	—		
施策の目的及び概要	研究組織の国際研究戦略に沿って、若手研究者を海外へ派遣し、世界水準の研究に触れ、未開拓の様々な課題に挑戦する機会を拡大することにより、頭脳循環の核となる優れた研究者の育成を図る。						
達成目標及び達成期限	若手研究者が長期間海外で武者修行する機会を10年で倍増させることへ貢献するとともに、若手研究者の海外派遣への不安感を解消することなどにより、諸外国に比して顕著な現在の「内向き思考」を打開する。						
研究開発目標及び達成期限	—						
23年度の研究開発目標	—						
施策の重要性	頭脳循環の核となる優れた研究者の育成を図るためには、研究組織の国際研究戦略に沿って、若手研究者を海外へ派遣し、世界水準の研究に触れ、未開拓の様々な課題に挑戦する機会を拡大することが必要である。 本施策は、これらに対応するとともに、新成長戦略等において提言されている以下のような課題の解決への貢献が期待されるものであり、頭脳循環の核となる優れた研究者の育成を図るための重要な施策と言える。 ＜新成長戦略～「元気な日本」復活のシナリオ～＞（平成22年6月18日閣議決定） ・アジアや世界との大学、科学・技術（中略）の交流・協力を促進しつつ、国際的に活躍できる人材の育成を進める。 ・国際共同研究の推進や途上国への科学・技術協力など、科学・技術外交を推進する。 ・「トップレベル頭脳循環システム（仮称）」の構築 ＜科学技術基本政策策定の基本方針＞（平成22年6月16日総合科学技術会議基本政策専門調査会） ・優れた資質を持つ若手研究者・学生が積極的に海外での研鑽を積むことができるよう、海外派遣・留学の機会の充実を図る。 ＜科学技術外交の強化に向けて＞（平成20年5月19日総合科学技術会議） ・科学技術の基盤も、外交の主体も、「人」である。（中略）科学技術外交を強化するため、科学技術外交を支える「人」の育成に取り組むとともに、その「人」の国際的な交流やネットワーク作りを促進する。						
実施体制	日本学術振興会が公募により、当該事業による支援を希望する者（研究者、研究機関）を募り、我が国の第一線級の研究者により構成される審査会での審査を経て、支援対象を決定する。						
H22予算額（百万円）				H23概算要求額（百万円）			
—				2,000			
独立行政法人名（運営費交付金施策のみ）				JSPS			
H23概算要求額の内訳	— 事業実施経費（1,970） ・1課題あたりの支援額：10～20 ・実施予定課題数：100～140						

	事業推進経費（30）		
期間	H23～	資金投入規模(億円)	—
これまでの 成果 (継続の み)	—		
社会情勢・ 技術の変 化(継続の み)	—		
昨年度優 先度判定 (継続の み)	—	優先度判定時の指摘 への対応(継続のみ)	—
国民との科学・技術対 話推進への対応(対象 施策のみ)	—		